

ほっふ
すてっふ
じゃんぷ



2012年版 第7号

塾長コラム

あんぱんち

第三十回

ずいぶん寒くなってきました。熱を出して、塾をお休みする子がいます。手洗い、うがい、マスクの着用など、周りの仲間への配慮も忘れずに、自分の体調に気をつけたいものです。

ところで、私事ですが、愚息の通う小学校のPTA役員を、今年度から2年間の任期で引き受けています。多くのお母様たちが、ご自身のご家庭とお仕事に忙しい中、PTAの活動に熱心に取り組んでおられる姿を拝見しています。一緒に役員を務めている男性役員の方と感銘を受けています。名教生のお母様たち（もしかしたらお父様も）の中にも、自分の子どものことだけではなく、地域の子どものために、PTAなどで熱心に活動されている方がいらつしやるんだらうなと想像します。機会がありましたら、そんなお話もお聞かせいただけたら幸いです。

さて、そんなPTAの行事の一つに「家庭教育セミナー」といったものがあります。年に数回、お母様たちに向けて、学校内外の講師が子育てなどについて、講演をするものです。今回、主催者としてあいさつをするという役割で、このセミナーに参加しました。初めての参加でした。学校の教頭先生と共に、他のお母様たちの間に入れてもらい、正直、少し雰囲気戸惑いながらの参加でしたが…

「子どものやる気を引き出す言葉かけ」が今回のテーマ

マで、コーチングを専門に人材開発研修の講師をされる原絹代さんという方のお話でした。近隣では、天白区や緑区の生涯学習センター、滝の水小学校にも出かけられているようなので、ご存知の方もいらつしやるかもしれません。子どもに言葉かけをする際に、コーチングの手法を活用すると効果的ですといった内容です。参加者同士で実際に練習をするワークショップ形式の講演でした。

実は、今回のテーマである「コーチング」については、私たち塾講師の中には比較的浸透している考え方です。学習塾が加盟する業界団体でも、コーチングを勉強したり、資格認定したりといった活動が行われています。ですから、私もその関連の書籍を読んで学びました。以前のこの『あんぱんち』でも紹介したことがあったと思います。

コーチング（coaching）とは、人材開発の技法の一つで、その語源は、「コーチ」（COACH）＝馬車です。馬車が人を目的地に運ぶところから、「コーチングを受ける人」（クライアント）を目標達成に導く人」を指すようになったものです。バッグなどの皮革製品ブランド COACH のマークにも、馬車が描かれていますよね。コーチングは、スポーツ選手の指導法として実例が紹介されることもあります。中ドラゴンズの落合前監督も、ずばり『コーチング』という本を書いています。そんなコーチングが、ビジネスや個人の目標達成の援助にも取り入れられました。そして、教育、子育てにも応用できるというので、最近では、親や先生向けに、「教育コーチング」として紹介されています。

PTAのセミナーに参加して、塾の先生という立場で学んできたコーチングを、親の立場という違った視点で学び直した気がしました。「お母さんは、子どもにとって

の名コーチとなって、併走してください。」—原絹代さんの言葉がとても印象的でした。

塾長 西川 陽祐

今月の学問のすすめ

《もとの文》

けんじん ぐじん べつ
賢人と愚人之の別は、

まな まな
学ぶと学ばざるによりて

でき
出来るものなり

《今のこぼでいうと》

かしこ にんげん ひと さ
賢い人間とそうでない人の差

まな まな
は、学ぶか学ばないかできま

るんだよ。

なぜ毎日学校にいつて、勉強しなくちゃいけないんだろう？

人は生まれたときにはみなおなじで、赤ちゃんと差はないよね。

でもおとなになるにしたがつて、びんぼうな人、ゆたかな人、尊敬される人、かるくみられる人、地位のたかい人、地位のひくい人にわかれてしまします。

なぜ、そんなに差がつくのかな？

勉強した人は、人よりたくさん知識があるので、だいいな仕事やむずかしい仕事をまかせられます。

そういう人は世の中から必要とされるから、みんなに尊敬されるし、地位もあがるし、お金もたくさんもらえます。本人もやりがいをもって、はたらくことができます。

でも、勉強しないとどうなるんだらう？

知識がない人は、かんたんな仕事にしかつくことができません。だれがやつてもできるから、あまりお給料ももらえません。尊敬もされにくい。

勉強するかしないかで、人生がこんなにちがつてしまいます。「だから学問が必要なんだ」と諭吉先生は、みんなによびかけたんだよ。

でも諭吉先生がいたかったのは、それだけではありません。江戸時代のおわりころに、日本は外国からせまられ、不平等な条約をむすばされて、たいへんあぶない状態でした。

そんなとき、かんたんな仕事しかできない人ばかりだったら、外国にまけて植民地にされてしまうかもしれない。だから、みんなが勉強することは、国が「独立」するためには、だいたいなことだと、諭吉先生はいつたのです。

いま日本は大きな災害にあつて、とてもたいへんな状態にあります。日本が立ちなおつて発展していくためには、みんなが勉強して、知識を身につけ、だいいな仕事について世の中の役にたつことが必要です。

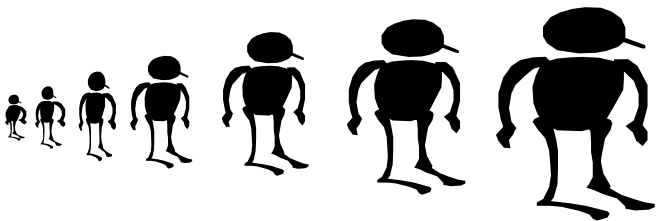
みんなが勉強するのは、自分自身のためだけではなく、世の中のためになるからなんだ。

『こども「学問のすすめ」』（齋藤孝著、筑摩書房、2011年11月30日発行）

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール 39

全員で廊下を歩くときには、一列で、前の人の 50～60 センチから1メートルほどうしろを、両手をからだの脇につけて歩こう。まっすぐに前を向いて歩くこと。絶対におしゃべりをしてはいけない。



「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

（ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社）より